

はじめに

今日の環境問題は、従来大きなウエイトを占めていた産業型公害から、近隣騒音や生活排水による水質汚濁、廃棄物問題などの都市生活型公害に移行する一方で、地球温暖化・オゾン層の破壊などの地球環境問題や新たな化学物質による環境汚染などが顕在化しており、人類の存続基盤や自然生態系の維持に深刻な影響を及ぼしかねない状況にあります。

特に、近年問題視されている「有明海及び八代海」の海域環境の急変については、学識経験者はもとより、県や国の関係機関で調査研究が進められています。根本的な原因を究明するまでには至っていないのが現状でございます。かつて「豊饒の海」と謡われ、私たちに豊かな海の幸をもたらすだけでなく、レジャーや観光などに集う憩いの場として、物心両面に潤いを与えてくれた八代海を再生することが重要な課題であると認識しています。

そのようなことから本市では、海域再生に向けた啓発活動を進めるための第1歩として、昨年8月、国際的な渡り鳥の保護組織である「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」への球磨川河口の参加を果たすことができました。今後は、渡り鳥とその生息地である干潟の保全を進める中で、人間活動と自然との共生の在り方や水環境保全対策の重要性を多くの市民に伝えていきたいと考えております。

また、本市の環境基本計画の目標である「安らぎ・守り・育む」ことができる地域社会の形成を目指し、市民・事業者・行政のパートナーシップの輪を更に広げ、全ての主体の皆様のご参加と御協力をいただきながら、「環境都市八代」の実現に向けて確かな歩みを進めて参る所存でございます。

本書は、平成15年度に市が調査した結果と平成14年度に関係機関が調査した結果を併せて、八代市の環境の現況としてとりまとめたものです。多くの皆様に御高覧いただくことによって、本市の環境について認識を深めていただくための一助となれば幸いです。

平成17年2月

八代市長 中島 隆利